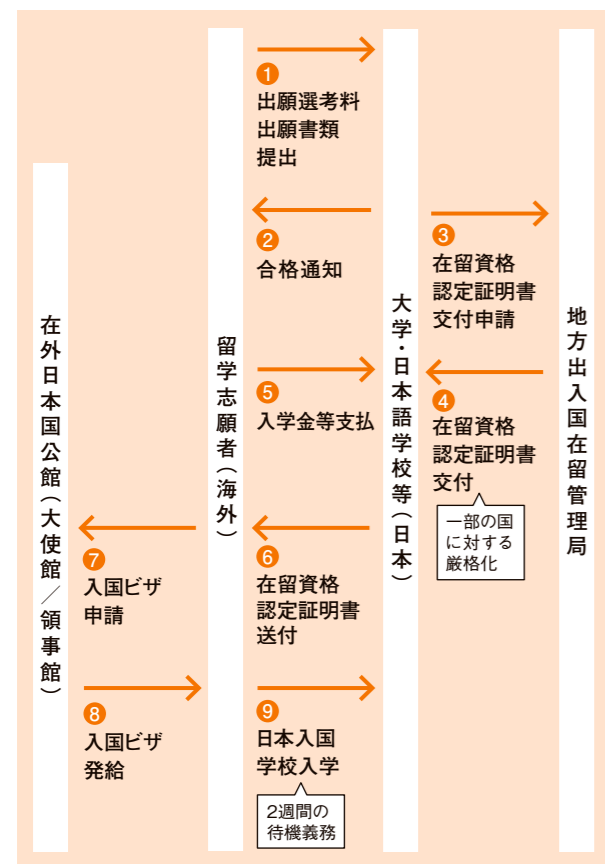
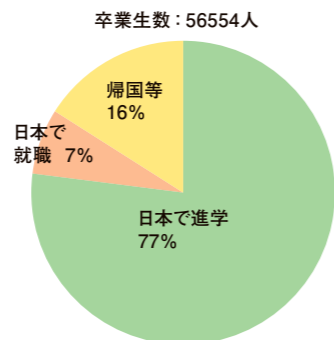


【図表4】留学志願者が来日するまでの手続きの流れ



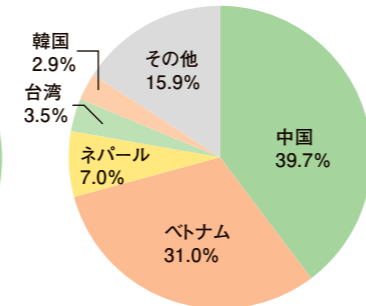
※JAPAN STUDY SUPPORT掲載情報や留学生教育学会への取材を基に編集部にて作成

【図表2】日本語学校の卒業生の進路 (2018年度)



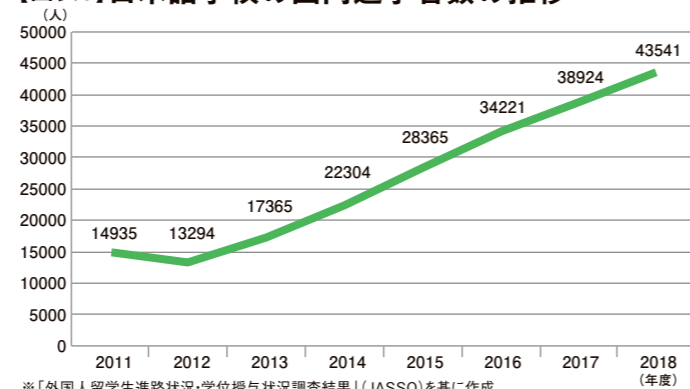
※「2018年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」(JASSO)を基に作成

【図表1】国内の日本語教育機関在籍者の出身国・地域別の割合



※日本語教育振興協会「日本語教育機関実態調査」(2019年度)

【図表3】日本語学校の国内進学者数の推移



※「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」(JASSO)を基に作成



inbound

コロナ禍によって先行きの不透明さが増す学生市場。日本留学希望者の現状、今後の動向予測から、withコロナの時代に対応した留学生募集戦略を考える。

どうなる? どうする? 留学生募集

日本語学校の状況から探る 留学生募集の今後

日本語学校の4月生で 入国できたのは7%

イングリッシュストラックや留学生別科のある大学に限られる日本では、多くの留学生は日本語学校を経て大学に進学する。したがって留学生募集戦略を検討する際は、日本語学校の学生在籍状況を知ることが不可欠だ。まず、コロナ禍以前の状況を整理しておく。

2019年5月時点の日本語学校在籍者は約8万4千人で、中国、ベトナムからの学生が多い【図表1】。卒業後は8割弱が日本の大学等に進学【図表2】。その数は右肩上がりに伸びていた【図表3】。それがコロナ禍でどう変わったか、多くの日本語学校が参加する留学生教育学会に話を聞いた。

与野学院日本語学校校長・谷一郎氏は2020年の状況を次のように説明する。「日本語学校への入学時期は年4回(4・7・10・1月)ある。2020年4月入学の予定者は約3万3千人いたと推定されるが、入国制限前に入国できたのは7%程度と思われる」。

10月からは私費留学の新生の入国が可能になったが、再び外国人の入国が制限されてしまった。外国人が日本で学ぶには数々の手続きが必要であるが【図表4】、日本での感染者増加、入国後は2週間の待機が義務付けられていたため、来日を延期するケースも出ており、結局、昨年に入国できたのは、6、7割程度と見られる。

在留資格認定証明書の交付を出入国在留管理局に申請する過程で2021年4月の募集状況も見えてきたが、「結果はかなり厳しい」という。中国の学生はさほど減っていないが、ベトナムほか東南アジアからの学生が激減しているようだ。「感染を恐れて保護者が海外に出さない、家計の急変で留学資金がなくなった等の理由が考えられる。2020年4月から在留審査が厳しくなっていることも影響している」(谷氏)。

留学生目線に立った 中期的な戦略が必要

日本語学校への入学者減少が与える。 「アジアの学生にとって、日本は『第一志望』の留学先ではない。そもそも留学希望者本人も保護者も日本の大学をよく知らないのが実情だ。教育内容、就職支援の広報活動をもっとすべきでは」。逆に言えば、最初は有名大学を志望していたとしても、「自分が希望する学びが心地よくできる大学」「就職支援が手厚い大学」を口コミで選ぶことも多い。「多くの留学生はたとえ小規模であっても面倒見がよい大学なら志願する」(永井氏)。

今こそ募集・入試・教育・サポート・就職支援を、留学生目線で見直し、中期的な戦略を持って取り組む必要があるだろう。なお、永井氏によれば、留学希望者から見た日本の魅力は「①欧米と比べて就職しやすい」「②アルバイトが認められているため、奨学金だけに頼らなくてすむ」「③魅力的な日本文化がある」ことだという。

近年は、現地の大学を出てから日本語学校で学び、直接、日本企業に就職する外国人も増えている。こうした変化もある中で、日本の大学の魅力を、どう発信していくのか。国と大学、日本語学校が連携して取り組んでいくべき課題だろう。

える大学進学者数への影響を、岡山外語学院副理事長・森下明子氏はこう予測する。「日本語学校に通う期間は最長2年間。2021年3月の大学進学者はコロナ禍以前から日本にいる学生だが、帰国希望者が増えている。加えて、コロナ禍による特例措置で、日本語学校の在籍期間が延長可能になったため、次年度に大学進学を持ち越す学生もいるだろう。よって、2021年3月の進学者数は、結果的に2020年3月比の7、8割になる可能性もある」。深刻なのは2022年3月の大学進学者数だ。前述の卒業を延期した学生を考慮しても、2020年3月比の3、4割程度と、激減が予想される。これは、2020年中に多くの入学予定者が予定の時期に入国できなかつたためだ。次の2023年3月については、2020年に入学予定だった学生の入学がずれて一時的に同比の9割程度に回復することも考えられるが、それも今後の感染状況次第だ。また、再度の入国制限が長期化すれば、予測に影響が出るだろう。いずれにせよ、留学生募集は厳しい状況が続く。

今、大学が留学生募集でやるべきことは何か? 同会副会長・永井早希子氏は次のように指摘す